



# OSaka LIFE SUPPORT

NPO法人 大阪ライフサポート協会便り

2010年7月号

## news

VOL. 6

  
Osaka AED Map  
大阪府AEDマップ AED登録場所一覧  
現在登録件数 7511件 [ホーム](#) [お問い合わせ](#) [よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [サイトのご利用について](#) [個人情報](#)  
■ アクセス数 26871  
■ 施設担当者ログイン  
  
一次救命は皆さんのです...  
AEDは、  
心臓に電気ショックを与えることで  
心臓のけいれんを止め、  
元の動きを取り戻すための医療機器です。  
  
AED登録のご案内 講習会ご案内 協力施設等と貢献施設登録 リンク  
  
http://osakaaed.jp/  
  
このサイトは、大阪府AEDマップサイトのトップページです。ぜひ一度ご覧ください。

## CONTENTS

- 総会報告.....事務局
- 大阪AED設置調査委託事業最終報告.....事務局次長 松本 耕司
- 大阪AEDマップ事業大成功に寄せて.....副理事長 岸本 正文
- PUSHプロジェクト報告.....PUSHプロジェクト運営委員会委員長、京都大学保健管理センター 事務局長 石見 拓
- 「全国一斉 PUSH」～紙芝居作成にあたって～.....大阪医科大学 医学部医学科 岸森 健文
- 応急手当コースからの報告.....大阪医科大学救急医学教室 小林 正直
- AHAコースからの報告.....上したレディースクリニック 吉田 雅代
- <救急の現場から>.....理事 岡 政徳
- ディレクター・インストラクター紹介.....岩田 直之/高嶋 美和
- 2009年4～2010年3月の講習会活動実績
- 事務局からのご連絡

OSAKA LIFE SUPPORT ASSOCIATION



## 総会報告

当協会の第6回通常総会が、快晴の6月6日(日)15時15分から(財)住友病院の14階講堂において開催されました。

平成21年度は、CPR(心肺蘇生)Training Box 通称“あっぱくん”(以下、“あっぱくん”)の普及や、大阪府AED設置調査委託事業の推進などで、文字通り激動の一年となりました。

迎えた平成22年度は、5ヶ年計画の最終年であるとともに、大阪府委託枠講習がなくなるなどの大きな変化が待ち受けていることから、総会は従来にもまして熱の入った進行となりましたが、その主要骨子を下記に報告します。(文責・事務局)

### I. 第Ⅰ部「講演会」 14時～15時

演題「応急手当コースのモデル提示」

講師：大阪医科大学救急医学教室 小林正直先生

昨年来、「応急手当コース」の新設をめざして、コース設定運営委員会(委員長：小林正直理事)を中心に論議を重ねてきた「同コース」の実施(初回7月)に先立ち、小林委員長から本番さながらのお披露目講演会をいただきました。

会員の皆さまからは熱心なご質問が飛びなど、手ごたえ十分なお披露目講演会になり、当協会のコースの裾野が広がったことを実感しました。

→(詳細は、P13、14、「応急手当コースからの報告」参照)

なお、「応急手当コース」は、「座学 60 分、受講料 1,000 円」を基本とし、「標準的内容」、「オプション内容」は以下のとおりです。

#### ・標準的内容

圧迫止血・熱傷・窒息・回復体位・胸痛・脳卒中・119番の必要な時とタイミング

#### ・オプション内容

溺水・痙攣など



### II. 第Ⅱ部「第6回通常総会」

15時15分～16時40分



総会は、安宅啓二副理事長の動議により、恒例により西本泰久理事長が議長に選任され、西本議長から当日現在の正会員数は121名、出席会員は95名(内、

委任状出席 56 名)で総会が有効に成立していることが告げられ、総会の議事に入りました。

又、総会に先立ち、議事録署名人には石見拓、岸本正文の両氏が指名され、会場の承認をえました。

#### <1>第1号議案

平成21年度事業報告 及び平成21年度収支報告

#### <1-①>平成21年度事業報告

議長の指名により、石見拓事務局長が議案を報告し、満場一致で承認されました。

～提出議案の骨子は下記のとおり～

#### I. 事業期間

2009年4月1日～2010年3月31日

#### II. 事業の成果(概括)

設立(2005年8月)から5年目を迎えた2009年度は、講習会開催数が151回、参加者総数が4,654名(@31名)(前年104回、5,030名、@48名)を数え、参加者数では前年に及ばなかったが、開催数が大幅に増加(145%)するなど、着実な広がりを見せた。

特筆すべきこととしては下記四点が挙げられる。

- ①“あっぱくん”的開発と普及に着手したこと。
- ②「全国でPUSH!運動」を初めて提唱し、全国の同志に同時開催を呼びかけたこと。
- ③「AHA」コースのトレーニングセンターとして体制の整備に努め、自主的な開催が認められたこと。
- ④大阪府の要請に応じて、「大阪府AED設置調査委託事業」に取り組み、大きな成果を上げたこと。

上記、ならびにその他の活動を総合して、2009年度は当協会の設立目的である「救急処置を必要とする傷病者の救命率、社会復帰率、さらには救命後の生活の質(quality of life)の向上」に対し、有意義な前進の一年になったと認識している。

#### III. 主な事業の取り組み状況

##### 1. AED・心肺蘇生講習会の開催

→(詳細は、P17、18参照)

##### ●講習会 151回 受講者数 4,654名

(前年 104回 5,030名)

内、「大阪府の委託枠による講習会」

88回 受講者数 3,054名(前年 70回 3,398名)

(1)「市民A・Bコース」受講者 1,420名

(前年 1,943名の 73%)

(2)「PUSH関連コース」受講者 2,704名

(前年 2,938名の 92%)

(3)「AHAコース」受講者 209名 (前年 なし)

- (4)「指導者養成コース」受講者 45名  
(前年 27名の 167%)
- (5)「PUSH指導者養成コース」受講者 14名  
(前年 なし)
- (6)「(大阪府教委委託)大阪府立高校PUSH指導者  
<教員>養成講習会」受講者 188名 (前年 なし)

## 2. 市民セミナーの開催

- ・2009年9月20日(日):「救急防災フェスタ2009 ~ AEDを学ぼう~」
- ・講演会(PUSH講習会)参加者: 358名
- ・会場: ATC(アジア太平洋トレードセンター)
- ・後援: 大阪府など7団体
- ・協賛: フィリップスエレクトロニクスジャパンなど7社

## 3. 「PUSHプロジェクトの展開」

「心肺蘇生・AEDの活用」を普及させるため、下記の新たな取り組みを展開し大きな成果を挙げました。  
⇒(詳細は、P9、10「PUSHプロジェクト報告」参照)

- (1)“あっぱくん”的開発と普及
- (2)大阪府立高校における「PUSH関連コース」の開催

### (3)「全国でPUSH!運動」の開始

・開催地域: 札幌、仙台、水戸、秋葉原、八丈島、沼津、名古屋、京都、大阪、岡山、兵庫、坂出の12地域。

## 4. 教材の開発

### ①「応急手当コース」の教材開発

「心肺蘇生・AED講習会」の際に、いわゆる一般的な熱傷、溺水などの応急手当てについても要望が強かったことから、同コースを新設するために多くの会員のご協力を得て教材の開発に努め、2010年度前半にはコースとして開催できるところにまでこぎつけました。

⇒(詳細は、P13、14「応急手当コースからの報告」参照)

### ②「e-learning ソフト」の開発

心肺蘇生法の普及に関する将来のさまざまな展開、ニーズに備え、同教材を作成しました。

## 5. 「大阪府AED設置調査事業」による(新)大阪府AEDマップづくりへの協力

大阪府の要請を受け、緊急雇用創出基金事業として大阪府下のAED設置状況を電話調査し、多くの困難な状況の中で、下記のとおり大きな成果をあげ、その結果を「新・大阪府AEDマップ」に掲載しました。

「新・マップシステム」では携帯電話からのアクセスも可能にするなどのさまざまな機能の利便性も向上させ、質・量ともに全国一と言ってもいい「AEDマップ」が完成しました。

これにより「AEDがどこにあるか?」が府民にさらにわかりやすくなり、「より命が助かる大阪のまちづくり」に大きく貢献できるものと期待されています。

### ●調査実績:

<総電話件数>

約190千件

<マップ登録数(4/20時点集計)> 7,380件

(調査前 1,100件)

⇒(詳細、ならびに関連報告はP6~P8 参照)



**大阪府AEDマップ**

## 6. 心肺蘇生／救急に関する情報提供(広報)や報道の状況

①「HP」:ホームページを常時リニューアルし、講習会開催についての一般市民への案内、「大阪府AEDマップ」の周知に努めました。

②「ニュースレター(会報)」:2009年7月、2010年1月の二回発刊し、会員内のみならず、広く情報提供に努めました。

③「報道協力」:“あっぱくん”的開発・普及などの話題も多かったことから新聞・テレビ等の取材要請も多く、積極的に協力して、広く心肺蘇生／救急に関する情報の提供に努めました。

・新聞報道: 2009.7.31 日経、8.14 東京、9.5 朝日・中日、10.14 産経、12.28 日経、2010.2.15 朝日

・テレビ報道: 2009.7.10 NHK、9.1 フジ、9.6 NHK、9.8 朝日・読売、9.9 朝日・NHK・関西

### <1-2>平成21年度収支報告

同じく、石見拓事務局長が議案の報告をし、満場一致で承認されました。

～提出議案の骨子は下記のとおり～

### <1>事業の収支状況

新設の「AHAコース」の受講料収入(340万円)、及び「研究委託・助成金収入」の増加があり、又、物品販売事業では、“あっぱくん”的順調な普及(930万円)等があつて、収入は順調に進展をしました。

一方、支出面では講習会経費、事務局経費の縮減に努めた結果、収支状況は大幅に改善しました。

その結果、正味財産は当期で 6,939,787 円増加し、累計 16,347,534 円となりました。



- 1. 全体収支(単年度・抜粋)**  
 (収入) 39,628,831 円 (前年 27,803,958 円)  
 (支出) 32,692,866 円 (前年 27,058,977 円)  
 (差引) 6,935,955 円 (前年 744,981 円)
- 2. 内、特定非営利活動(NPO本来)の収支**  
 (内容) 講習会(AED・AHA・指導者養成)、勉強会、市民セミナー、大阪府AEDマップ運営、広報啓発、教材開発、調査研究 等  
 (収入) 26,990,571 円  
 (支出) 23,722,438 円  
 (差引) 3,268,133 円
- 3. 内、物品販売事業の収支**  
 (内容) “あっぱくん”、人口呼吸用フェイスシールド、ポケットマスク、書籍、DVD 等  
 (収入) 12,638,250 円  
 (支出) 8,970,428 円  
 (差引) 3,667,822 円

## <2> 第2号議案

### 平成22年度事業計画(方針) 及び平成22年度予算案

#### <2-①> 平成22年度事業計画(方針)

同じく、石見拓事務局長が議案を報告し、満場一致で承認されました。

～提出議案の骨子は下記のとおり～

#### I. 事業期間

2010年4月1日～2011年3月31日

#### II. 事業計画の概要(背景)

昨年度は、「“あっぱくん”的開発と普及」や、「大阪府AEDマップ調査事業」などの特筆すべき出来事があったが、本年度は2006年度から開始した5ヶ年計画(心肺蘇生実施率の向上、社会復帰率の向上など)の最終年度であることから、中長期にわたり

- ①NPOとしてバランスのよい収支体制の構築。
  - ②講習会を安定的に供給していくための体制の整備。
  - ③心肺蘇生/救急に関する情報提供の充実。
- …を目標とし、NPOとしての設立目的が更に達成できるよう、地道に基礎を固めることに力を注ぎたい。

特に、大阪府の「救命都市おおさか戦略事業」からの委託事業として取り組んできた「大阪府委託金枠講習」が昨年度で終了したことから講習会参加者数が減少することが予測され、本年度は当協会の「真価を問われる年」として、とりわけ「講習会の充実」に力を注ぎ、将来にわたって広く社会から支持、期待をされる協会の活動の基盤を強化していく。

#### III. 5ヶ年計画最終年として、特に力を注ぐ取り組み

##### (1)「全員参加・担当制」の事業運営

役員・会員有志・事務局員が各業務項目を分担し、業務項目ごとの成果・反省・目標設定を明らかにして全員参加で着実に「業務の進展・質の向上」が図れるよう運営体制を整備し、次の5ヶ年に備える。  
 ⇒(詳細は、P5参照)

##### (2) 中長期にわたる重要項目への取り組み(前記)

###### ①NPOとしてバランスのよい収支体制の構築



・基本は講習会の参加者増加策を図ることにあるが、「寄付・助成金・その他」の社会からの支援を獲得するため、年度の目標を定めて行動する。  
 ・「会員(個人・法人・特別)の拡大」のために、広く積極的に働きかけをしていく。

###### ②講習会を安定的に供給していくための体制の整備

- ・(人): ディレクター・インストラクターの養成と、諸条件・環境の整備。
- ・(マネジメント): 円滑に講習会を運営するため、事務局を常時補佐できる担当体制の確立。
- ・(技術・質): 指導技術、コースリニューアルなど、講習の質の向上を図る取り組み。
- ・(物): 5年を経て劣化した講習資機材については更新を図るなど、資機材のレベルの見直しと充実。
- ③心肺蘇生/救急に関する情報提供の充実
- ・HP、ニュースレターによる情報提供にとどまらず、「イベント・市民セミナー、勉強会、AEDマップ、学会・講演会・発表会」など、関連するさまざまなチャネルを総合的に駆使して、常に最新の情報を世の中に提供していく取り組みを強化。

#### IV. 本年度の主な個別事業の取り組み(骨子)

##### (1) AED・心肺蘇生法講習会

###### ①コース・料金体系の見直し

既に実施済み(協会パンフレット参照)

###### ②講習会の開催目標:

年間 150 回 受講者数 5,000 名程度を目標

(昨年 151 回、4,654 名)

- ・基本コースである「市民上級(旧A)・標準(旧B)」コースについては、参加しやすいよう便利のいい講習会場の確保や、休日の開催に取り組む。
- ・「指導者養成」は、市民コース4回、PLUSコース8回程度を目標として充実を図る。
- ・「応急手当コース」、「スポンサーコース」については

新設コースとしてその定着をめざす。  
・二年目を迎える「AHAコース」については、ACLSの  
一日コースや出張コース開催の実現に努める。

#### (2)市民セミナー

年に1~2回開催を目標（第一回目：9月5日（日）、  
第二回目（予定）来年1月16日）

#### (3)「いのち」について考える勉強会

年6回を目標

#### (4)PUSHプロジェクト

前年に引き続き、「あっぱくん」の普及と運動しながら、大阪府下は勿論、国内外にわたって大きく裾野を広げる活動を展開していく。

⇒(詳細は、P9、10「PUSHプロジェクト報告」参照)

#### (5)「新・大阪府AEDマップ」の運営管理体制の確立



「新・大阪府AEDマップ」の安定した運営管理体制を構築し、実際に「救命への貢献」や「講習会の充実」につながるような取り組みに力を注ぐ。

- ①登録情報更新、問い合わせ対応などの体制整備。
- ②大阪府、各消防等との連携による登録数増加への取り組み。
- ③「大阪府AEDマップ」の将来にわたる安定した運営経費の確保策への取り組み。

#### (6)広報・PR活動

- ①「HP」…広く社会に適時情報を発信し、特に、講習参加希望者に親切なHPをめざす。
- ②「ニュースレター」…会員ならびに支援団体に対して的確な協会情報を提供し、NPOとしての思想の共有・醸成を目指して年2~3回発行をめざす。
- ③「寄付金の使途」のHPなどでの公開を進めるなど、協会運営の透明性を確保する。

#### <2-②>平成22年度予算案

同じく、石見拓事務局長が議案を報告し、満場一致で承認されました。

～提出議案の骨子は下記のとおり～

<1> 収入予測 34,747,000円  
(前年実績 39,628,831円)

前年は約650万円あった大阪府委託金が、本年は府立高校PUSH講習のみの約80万円に減額されたことから、一般的講習会での収入確保に地道な努力を続けるとともに、「あっぱくん」を中心とする物品販売収入(目標:約1,700万)、各方面からの寄付、助成金、研究委託金の確保に力を注ぐことを基本として収入予測を立案しています。

#### <2> 支出計画 34,747,000円

(前年実績 32,692,866円)

全体には固定費・活動費のムダを省くコスト縮減の努力を継続的に続けながら、5年を迎えて劣化した資機材の一新・教材の購入開発費(約250万)、AEDマップを含め更に充実が必要となったシステム維持・改良費(約150万)の手当てをするなど、次の5年に向かうインフラの整備を意識して支出計画を立案しています。

#### <3> 第3号議案

##### 平成22年度役員選任の件



議長より下記のとおり、理事の新任、辞任の選任案が示され、満場一致で承認されました。

◆理事(新任) 安藤正人氏

(堺市消防局)

新理事 安藤正人氏

◆理事(辞任) 芝 誠次氏

(特定医療法人 同仁会 耳原総合病院)

又、監事の杉本壽氏(星ヶ丘厚生年金病院)が一身上のご都合により辞任されました。

芝誠次様、杉本壽様にはこれまでのご協力に対し心から感謝を申しあげます。

これにより、当協会の役員は下記のとおりとなりました(敬称略)。引き続いてのご協力をお願い申しあげます。

(顧問) 關淳一

(理事長) 西本泰久

(副理事長) 石見拓、岸本正文、安宅啓二(3名)

(理事) 平出敦、野阪善雅、林靖之、向井友一郎、小林正直、谷村信宏、松本政明、天満由美子、光島和子、阿野千里、吉田雅代、岡政徳、山西清芳、朝野富三、松本義和、安藤正人(16名)

(監事) 立花正雄、西本富美子(2名)

#### <4> 第4号議案

##### その他、運営に関する重要事項の件

議長より会場からの提案を求めましたが、特にご提案はなく、総会議事は滞りなく終了しました。

### III. 第Ⅲ部 (前記)「全員参加・担当制」の事業運営について、各リーダーからの所信表明 16時15分～16時30分

所定の議案終了後、第2号議案で報告された首記の件につき、石見事務局長から業務項目、担当分担についての進捗状況報告がおこなわれ、それぞれの項目のこれまでにできたこと、できなかつたこと、本年度の取り組むべき事項がスライドで発表されました。

又、各リーダーからそれぞれの所信が力強く述べられました。

(各業務項目、分担、本年度目標の骨子は、右記のとおり)



全員参加・担当制の事業運営 (2010年7月現在)

※2009年度の成果と反省は省略

業務項目	担当者	2010年度の目標（骨子の説明）
標準コース	○松本(政) 安藤・林 光島 (田中・車谷)	①通常（収益）コースで前年倍増の1,000人程度の受講者を目標 ②年間開催計画（目標）を策定 ③ディレクター・インストラクターの円滑な募集体制の構築
PUSHコース PUSHプロジェクト	○石見 阿野・松本(政) 小林 (講習：田中) 車谷 (P・J：飯木)	①府教委との連携で年間60校の講習、8か所で指導者養成を実施 3年間で府立高校全校で開催し、以降は自前の講習を促す ②モンキーラブアニメ教材の作成とウェブ公開、DVD化 ③9月5日「全国で一齐PUSH！」を開催（昨年は112地域）
応急手当コース	○小林 光島・松本(政) 安宅・谷村 (田中・車谷)	①コースの立ち上げと講習会の開催 ②ステップを踏みながら、逐次、内容と質を充実
指導者養成	○安藤 松本(政)・石見 (田中・車谷)	①指導者養成は年6回開催を目指す（ディレクターは理事持ち回り）
AHAコース	○吉田 安宅 (熊本)	①ACLS一日コースの立ち上げ ②出版コースの開催（広報と実行体制）
勉強会	○安藤 松本(政)・石見 (飯木)	①担当者を明確にして月1回の開催を目指す
イベント ／市民セミナー (相談役：山西理事)	○谷村 安藤・石見 (松本経)	①年2回の市民セミナー実施 (今年度は、9月5日（決定）1月16日（予定）) ②運営会議を結成し、担当理事主導で推進
コース・リニューアル	未	
新・コースガイド	未	
音機材整備	未	
インストラクター世話 ／マラスマント対応	○光島 天満 (田中・車谷)	①インストラクターの待遇環境・体制の整備 ②意見交換会を定期的に開催 ③講習会など、協会活動に貢献の大きいインストラクターの表彰
あっぱくん ／モンキーラム	○石見 安宅・小林 松本(政) (飯木) (木水)	①あっぱくん5000講習及を目指す（通信版会体制も整備） ②あっぱくんの品質管理体制の整備 ③モンキーラブアニメDVD1000枚普及を目指す
DVDライセンス契約	○安宅 向井 (木水)	①契約更新を遅やかに行い、現在の契約件数を維持 ②不正使用審査対策の検討
大阪府AEDマップ	○向井 石見・安宅 (飯木)	①登録情報の更新・維持をする管理・サービス体制の構築 ②マップ登録数増加への継続的な取り組み強化 ③システム維持費用の長期的担保策の検討
HP (相談役：朝野理事)	○岸本 阿野 (飯木)	①定期・適時の更新 ②使いやすいHPを目指す（検討会議開催）
ニュースレター (相談役：朝野理事)	○岸本 阿野 (飯木)	①発行回数の確保（2回～3回） ②発行する毎回による内容の充実（協会の精神を確認） ③会員以外の方へも広く協会をPR（活用法、内容の検討）
財政・収支状況 (寄付・助成金)	○安宅 向井・野阪 平出 (木水)	①寄付金・助成金・委託金の獲得活動の強化 ②収支バランスを3カ月単位で管理できる体制づくり
会員拡大 (団体・個人)	○岸本 安宅・石見 (木水)	①会員数の増加による基盤強化（目標は数年前の約600名） ②会員へのサービス内容（情報提供・特典など）の整備
事務局運営・全般	○石見 安宅・松本(政) 安藤 (松本経)	①全員参加・担当制で、省で運営する体制・環境づくり ②事務局担当理事体制の充実 ③効率的で、過度の負担のかからない事務局の運営

**IV. 第IV部 5月31日、岸本正文副理事長が「第13回日本臨床救急医学会総会」において発表された「大阪府AEDマップ調査事業報告」の概要報告**

16時30分～16時40分



続いて、学会参加者からは大変好評であったとお聞きする首記の岸本副理事長のご発表を、臨時にお願いして、我々会員にも再度、ユーモアたっぷりにご披露をいただきました。

→詳細は、P8「大阪府AEDマップ事業大成功に寄せて」参照

以上を最後に、総会の雰囲気もなごやかに盛り上がる中、西本議長から「設立の頃には予想もしなかったほどの発展をみることができたことは偏に会員各位のご協力のお陰である」との感謝の言葉が述べられ、「大阪府の委託枠講習がなくなるという大きな危機の年であるこの5ヶ年計画の最終年を無事に乗り切って、

引き続き、次の5年に臨めるよう、皆さまのご協力をお願いしたい」とのご挨拶があり、大きな拍手の中で総会は終了しました。

恒例の参加者全員による記念写真のあと、光島和子理事の担当でおこなわれた大阪市内での第V部とも言うべき希望者による懇親会も25名前後の参加者があり、有意義な意見交換のひとときを過ごして散会しました。



<参加者全員の記念写真>



## 大阪府AED設置調査実績

- 調査実施期間:  
2009年10月～2010年3月
- 調査実施場所(臨時事務所):  
新大阪第二日大ビル 405・406号室
- 調査従事者数:  
延べ 77名
- 総経費:  
約7,200万円
- 調査実績:  
<総電話件数>約190千件  
<調査件数>144千件  
<AEDマップ登録件数(4/20時点)>  
7,380件 (調査前 1,100件)

※2010年7月31日現在:

登録件数 7,513件

アクセス数 27,690件

調査先	調査件数(3月末日現在)		登録台数(4月20日現在)	
	架電件数	調査のできた件数	登録台数(1件複数台)	構成比(%)
消防・海保・防衛関係施設	44	28	208	2.8
医療施設	18,611	11,734	1,151	15.6
介護・福祉施設	1,746	1,330	426	5.8
公共交通機関	830	661	432	5.9
学校・保育施設	2,497	2,016	2,313	31.3
体育・スポーツ施設	1,639	1,132	403	5.5
公園・文教・娯楽施設	2,342	1,599	276	3.7
宿泊施設	3,383	2,530	85	1.1
商業施設	25,547	19,877	211	2.9
会社・事業所	110,556	88,042	964	13.1
その他の公的施設	2,150	1,580	570	7.7
その他の民間施設	15,775	11,061	293	4
その他 上記以外	5,062	2,628	48	0.6
計	190,182	144,218	7,380	100%

登録可(7380件)のうち、公開可の施設件数	6,959	94%
" 市民活用可の施設件	5,798	79%



## 大阪府AED設置調査委託事業最終報告

事務局次長 松本 耕司



### 1. 事業後半の状況

前号第5号では、10月にこの事業を始めてからの前半の状況をご報告しました。

その後、新年からは今回の調査の主目的である「民間企業」へ調査に軸足を移しながら、昨年度手がけた市町村を中心とする「公的団体」のフォローをするという二本立ての動きですすめました。

依然として不十分なままの名簿をもとにしての作業でしたので、難波を極めたというのが実態でしたが、時折、数十、数百の単位でご登録いただくところもあって、その瞬間は作業室に歓声があがるなど、悲喜こもごもの日々を過ごしました。

### 2. 目がまわったヤマ場3月

そして、最終月3月は全ての作業が同時並行で進行する最大の佳境を迎えるました。

即ち、①新たな調査先には電話をかける。②過去の電話先に最終確認をする。③これ以上の調査の継続の可否を判断する。④メールやFAXで登録を受付ける。⑤登録承諾先をマップに掲載する。⑥掲載したらお手紙で知らせ、使用マニュアルを届ける(最終合計では軽く7,000通をこえる大作業になりました)。⑦そのマニュアルに対するお問い合わせ電話にお答えする。⑧同時に3月末の事業終了に備えて撤収作業をすすめる・・などで、目のまわりいそがしさの中で日々が過ぎていきました。

幸運なことに、3月の途中では7,000件の登録をこえることが明確になり、士気が衰えることもないまま、掃除や書類整理の後始末の最後の最後まで、全員の熱心な協力をいただけたことを心から有り難く思いました。

協会としては、この皆さんのご協力に感謝するため、仕事の合い間に「市民コース講習」を無料で提供しましたが、皆さんのが心からの笑顔で喜んでいたいたのも、強く思い出に残るものとなりました。

### 3. 解散式

3月31日の最終日には、大阪府の関係者、協会幹部の方々に出席いただいて「解散式」を行いましたが、協会としては不十分な条件の中でご協力いただいたことに対し、ただただ感謝を申し上げるだけでしたが、メンバーの皆さんからは、AEDの調査を通して社会に貢献できしたことへの喜びや、この間の協会がさせていただいたお世話に対して感謝やねぎらいの言葉を沢山いただき、言葉には言い表せない感動を覚えました。

メンバーの皆さんのがこれからのご多幸を心から祈って、ひとまずのお別れをした次第でした。

### 4. 調査の結果

こうして、大阪府AED設置調査委託事業は、前ページ記載のとおり、調査の終了時点で7,380件の登録という予測をこえる大きな成果をあげて終了しました。

調査委託事業費についても、当初委託費を約1,000万残して(返還して)終了するという結果となりました。

これもご参加いただいたメンバーの皆さん、「緊急雇用基金事業」という概念にとどまらず、むしろ「社会貢献」として受けとめていただけて、5ヶ月の長きにわたりご奮闘いただいたからこそその成果であると思います。ご参加いただいたメンバーの皆さんには紙面をお借りして、あらためて御礼を申し上げさせていただきます。

### 5. 協会に与えた影響と課題

今回の委託事業は協会に大きな影響を与えるました。

特に、大阪のまちに5ヶ月間、AEDに関する電話が19万件も飛びかったことは「認知度の向上」という点では大きくプラスになったと考えます。事実、新年度は激減することが予測された講習希望は、4月以降大きな落ち込みをみせていませんが、これも「AEDマップ効果」であろうと考えています。

さらに、大きい課題としては、装いも新たに新しい機能を付加してつくりあげ、7月時点で7,500件をこえる登録と2万件をこえるアクセスのある、日本一といつてもいい、この「新・大阪府AEDマップ」を、今後どのように有効活用して救命率の向上に活用していくのかという点です。

その前提として、どうやって運営を維持していくか、又、登録数を増加させていくかという基本の課題もあります。

折角の財産を誰もが納得し、協力できる形で育てていかなければならぬことを、お互いにおおいに意識すべきであることを提言して報告といたします。

調査事業参加の皆さんとは、今後、何かのいい機会があれば「是非、同窓会を開催しよう」と約束していますが、その機会が一日も早く訪れる事を願っています。





## 大阪府AEDマップ事業大成功に寄せて

副理事長 岸本 正文



電話での聞き取り調査から AED マップを作成するといった前代未聞の大事業は、大成功のうちに終了しました。この事業に関わられた全ての方々にこの場を借りまして御礼申し上げます。

AED マップ事業の内容を第 13 回日本臨床救急医学会総会(5 月 31 日:幕張)にて発表させていただきました。その報告を致します。

### 1. 発表の内容

#### ①AED マップの必要性

2004 年 7 月に一般市民による AED の使用が認められるようになり、AED の設置が進んでいます。現在は全国に約 26 万台が存在するといわれていますが、どこに存在するかの把握は困難な状況です。いざという時に AED の場所がわかるような情報システムがあれば、より有効な AED の使用が可能になると思われます。ただ設置するだけでは不十分であり、今後は AED が有效地に使用される環境作りが必要と考えます。

#### ②AED マップの作成方法

多くの人員を雇用し大阪府内の事業所全てに電話を掛けて聞き取り調査を行う、いわば「じゅうたん爆撃的」方法です。質問内容は AED 設置の有無、AED マップへの登録の可否、一般市民による使用の可否などです。電話リストは主としてインターネットタウンページより作成しました。予算は厚生労働省の緊急雇用創出事業からの捻出であり、期間は昨年 11 月から本年 3 月までの 5 ヶ月間を敵守する必要がありました。あまり大きな声では言えませんが、この事業の主たる目的は雇用創出であり、AED マップの精度は問わない、というのが当初の認識がありました。

#### ③事業開始前の懸念事項

この事業は、協会にとって全く初めて取り組む事項ばかりであり、当初は不安で一杯でした。人員(従業員)の確保は可能か、期間内に終了することができるのか、予算内で収まるのか、協会の他の事業への影響(特に講習会開催)、などが懸念事項でした。

#### ④事業開始までの準備

準備としてまず拠点となる場所(事務所)の確保を行いました。事務所には事務機器や事務用品、電話回線、パソコンなどを配備しました。

ハローワークを通じて従業員を公募しました。集まった従業員に対して、事業の概略の説明、AED に関する勉強会を開催しました。

従業員を電話班、FAX 班、パソコン班に分け、各グループのリーダーを決めました。

実際に電話をかける際のマニュアルを作成しました。

#### ⑤事業開始後の問題点

タウンページは同じ事業所が複数のジャンルに記載されていることがあり、重複の発見に時間を費やしました。電話リストの作成が間に合わず、掛ける相手がない、といった局面もありました。

団体全体としてマップへの登録不可という事例もあり、従業員のモチベーションの低下が危惧されました。

#### ⑥事業の成果

マップへの登録件数は 7000 件を超えるました。この事業で協会の認知度が高まりました。

#### ⑦今後の問題点

AED マップはただ作成するだけでは不十分であり、その存在を社会に周知徹底する必要があります。

### 2. 会場からの反響

大阪以外にも AED マップを作成している地域はあります、そのほとんどが設置施設からの自己申告に

基づくものです。精度の高い我々の作成方法に対して、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。我々の方法を見習って、精度の高い AED マップを作成しよう、というコメントもいただきました。

### 3. AED マップ事業雑感

この事業への一言を申し上げるのなら「大成功万歳」といった感じでしょうか。

事業大成功の最大の要因は、人に恵まれたことだと思います。すばらしい従業員の方々でした。3 月 31 日の解散式は学校の卒業式のような雰囲気でした。今日で終わりか、と少し名残惜しかったです。同窓会での再会を約束した方もおられます。

松本事務局次長、彼末さんをはじめとし、この事業に関わり、協力してくださった皆様の存在がなければ事業成功は有り得ませんでした。引きつき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。





平成20年度に、当協会の心肺蘇生法・AEDの活用を普及させるための新たな取り組みとしてスタートしたPUSHプロジェクトは、平成21年度に大きく発展し、協会の活動の柱の一つとなっていました。ここでは、平成21年度のPUSHプロジェクトの主な取り組みを紹介するとともに、今後の展望を紹介します。



#### 平成21年度 PUSHプロジェクトの主な取り組み

- ① CPR Training Box “あっぱくん”的開発と普及  
・教育や企業の現場等で短時間(1時間)で多数の人が講習を受けることが可能となる上記の教材を開発し、その普及に努めるとともに、“あっぱくん”を使用したPUSH講習会を多数開催しました。  
・“あっぱくん”的普及は順調に進み、2009年8月の開始以来、2010年3月末現在で4,000個を超える普及を達成しました。  
・協会が行う心肺蘇生法・AED講習会参加者(4,654名)中、“あっぱくん”を使用した「PUSH講習会」は58%(2,710名)にまで伸長しました。(前年51%)

- ② 大阪府立高校における「PUSH講習会」の開催  
PUSHプロジェクトに寄せられた寄付、キャスト登録の資金により、大阪府教育委員会と連携し、府立高校の教育現場におけるPUSH講習会実施を促すため、33校に対しあっぱくんを20個ずつ寄贈しました。このうち、平成21年度中に28校生徒1,020名に対する「PUSH講習会」を、又、7回にわたり教師188名に対する「PUSH指導者養成講習会」を開催しました。



＜府立高校でのPUSH講習会の風景＞

#### ③ 「全国でPUSH!運動」の開始

- 初の試みとして、「救急の日(9月9日)」にあわせ、大阪から全国の同志に呼びかけ、12の地域で“あっぱくん”を使用した「全国でPUSH!運動」を展開し、全国に「PUSH運動」を広めるための重要な一步を踏み出しました。(⇒詳細はPUSHホームページ

<http://osakalifesupport.jp/push/index.html>

- ・開催地域:札幌、仙台、水戸、秋葉原、八丈島、沼津、名古屋、京都、大阪、岡山、呉、坂出の12地域。(大阪地区:9月6日に住之江会館で少年野球チームの子どもたちと保護者86名が参加)

#### 平成22年度 PUSHプロジェクトの事業計画概要

プロジェクトを通じて、『心肺蘇生法、AED、誰かが倒れたら声をかけ、何かできることをする勇気を持つことの重要性』を訴える取り組みを継続します。

##### ① 府立高校でのPUSH講習会開催支援

昨年度の取り組みを継承させる形で、大阪府の委託を受け、府下の高等学校に「PUSH講習会」(生徒対象60回)、「PUSH指導者養成講習会」(教師対象4回)を開催します。

本取り組みは、メトロニック助成財団から助成を受けたPUSH project for schoolと連動し、3年後に府下ほとんどの高校で自律的にPUSH講習会開催可能な体制を確立することを目指します。

##### ② 「全国でPUSH!運動」を発展形で開催。

昨年度に引き続き、本年は、9月5日(日)に全国でPUSH!運動を行います。全国10~15か所での開催、メディアへのアピールを通じて、PUSHプロジェクトの趣旨を広く社会に訴えます。

また、③の教材提供と連動する形で、PUSH講習会開催のノウハウを提供し、講習会開催を促す取り組みをすすめていきます。

##### ③ アニメ教材の作成など、ソフトの充実

“あっぱくん”に続き、PUSH講習会の開催、AED/心肺蘇生法の学習を広く促すために、アニメ教材を作成・販売します。広く心肺蘇生法に関心を持っていただるために、一部はインターネット上で無料公開する予定です。本教材は、9月1日から販売開始予定です。会員割引もあります。ご期待ください！！

あわせて、“あっぱくん”的販売体制も強化し、1個単位での個別販売にも対応可能な通信販売体制を構築します。

⇒詳細は、P10参照



##### ④ 学会等との連携

日本臨床救急医学会、学校BLS委員会、日本心臓財団など、心肺蘇生法の普及に努める団体の取り組みと連携し、心肺蘇生・AED講習会の全国的な展開を促しています。

## ⑤ その他

大阪府茨木市、豊中市で展開している地域モデルの提示を進めるとともに、台湾でも PUSH 講習会をモデル提示するなど、国際的な取り組みも進めます。

また、プロジェクト開始から2年間の実績を整理し、報告を行う準備を進めています。

以上、PUSH プロジェクトから、平成21年度の活動報告および22年度の計画概要を報告しました。

引き続き、皆様とともに、「倒れた方に声をかける勇気を持つこと、そして何かできることをしてあげることが一番大切なこと」というプロジェクトの趣旨を広げていきたいと思います。ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

### ♪お知らせ

AEDが国際宇宙ステーションにも搭載されていることをご存じでしょうか。

これまで3回にわたって宇宙滞在を経験した若田光一氏に、宇宙におけるライフセービングとグレー・メディカルオフィサーとしての取り組みについて、石見拓事務局長が伺いました。その模様が小冊子にまとめられていますので、ご入用の方は、事務局までお問い合わせください。



### »アニメ教材の作成について

当協会監修のDVD「いっしょにやってみよう！たたかう！救急アニメ 救え！ボジョレー！」は、小学生から大人まで“あっぱくん”を使って、命の大切さ、第1発見者の重要性、胸骨圧迫、そしてAEDの正しい使い方と意義を、みんなで楽しく学ぶために作りました。

このDVDは、“あっぱくん”20個1セットのご購入につき、1枚お付けする予定です。

- ◆ 個別販売価格(予定) ¥1,050(税込)
- ◆ 会員特別価格を設定(予定)…詳細は別途お知らせします。

  
**PUSH  
PROJECT**  
<http://osakalifesupport.jp/push/>



**【胸骨圧迫（心臓マッサージ）とAEDを学ぼう】**  
**あっぱくん  
救急アニメ**  
**教え！ボジョレー！！**

[第1話] 心臓突然死ってなに？ [第2話] 胸骨圧迫（心臓マッサージ）のしかた [第3話] AEDの使い方  
[第4話] こんな場合も「電気ショックはいりません！」 [第5話] 救命処置の復習 [第6話] 第1～3話連続再生



#### ■DVDの内容

- 【第1話】心臓突然死ってなに？
- 【第2話】胸骨圧迫（心臓マッサージ）のしかた
- 【第3話】AEDの使い方
- 【第4話】こんな場合も！「電気ショックはいりません！」
- 【第5話】救命処置の復習
- 【第6話】第1～3話連続再生

10



## 「全国一斉PUSH！」～紙芝居作成にあたって～

大阪医科大学 医学部医学科 第4学年 岸森 健文

「みんなは心臓、肺、脳がどこにあるか知ってるかな？」



先日、大阪市立野中小学校で私が代表をつとめさせていただいている学生団体の活動を朝日新聞に取り上げていただいた際の記事の書き出しです。購読者に興味を持っていただけるような文章を書いていただき感無量でした。

このセリフは紙芝居に登場する Dr.ラングというキャラクターが話すのですが、実際、このセリフを通して紙芝居を観ている子供たちは目を輝かせてくれます。



この紙芝居作成のお話を石見拓先生、前重さんご夫妻よりいただいたのは去年の救急の日（9月9日）に合わせて大阪ライフサポート協会が全国に呼びかけた、全国一斉 PUSH の約1カ月前でした。全国一斉 PUSH の大阪会場では、大阪市内の少年野球チームの子供たちとその親ごさんを対象に PUSH 講習会を開催することになっていたのですが、私たちはその導入の部分を任せていただけることになりました。

石見先生、前重さんご夫妻からは、子供たちに「命の大切さ」を伝えられるような内容にして欲しいというオーダーがあったのですが、前重さんご夫妻や湯川先生等と打ち合わせをしていくことで大まかな内容が固まっていきました。作成の中心となつて一緒に活動したのは、大阪市立大学医学部4年生（当時）の戸上由貴さんと大阪医科大学医学部3年生（当時）の宮岡愛さんでした。その他、絵の作成には大阪市立大学医学部と大阪医科大学医学部から多くの仲間に協力してもらいました。



ここで登場するキャラクターについて説明させていただきます。登場するのは3人のキャラクターです。心臓に住む「じゅんじゅん」、脳に住む「セレブちゃん」、そして肺に住む「Dr.ラング」。

ストーリーは Dr.ラングが中心となり、3人の会話の中で進行していきます。ちなみに名前の由来ですが、「じゅんじゅん」は「循環器」から、「セレブちゃん」は脳を意味する「cerebral(脳の)」から、「Dr.ラング」は肺を意味する「lung」からとりました。名前は私と戸上さんの完全な趣味で可愛らしくかつ医学的要素を持つものを考えました。友人たちからは様々な批判を頂戴したのですが…。



文章を書く際に苦心したのは表現の仕方でした。医学的な内容に関しては石見先生に何度もチェックをしてもらっていたので安心していたのですが、文章が難しすぎて聴いてくれている子供たちが理解できないのでは意味がありません。

例えば、「血液」という言葉ですが、これは成人であれば何の問題もない言葉です。しかし、子供たち、特に小学校低学年の子供には、少々難解な言葉ですので、「血液」を用いるか「血」と言い換えるか相当悩みました。結局は「血液」を用いることにしましたが、他にも「酸素」や「エネルギー」など言い換えるべきか悩むものは数多くありました。



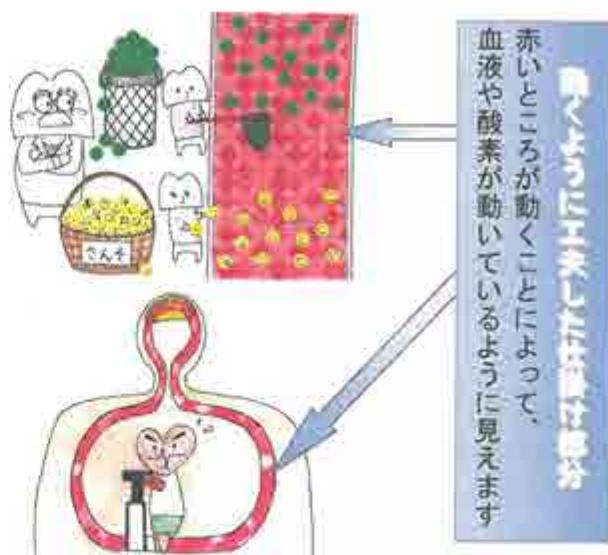
最終的には、最も伝えたい部分「命の大切さ」という部分だけは出来る限り分かりやすく表現することになりました。

絵を描く際に力を入れたのは仕掛けでした。心臓の働きによって全身に血液が循環する様子や、肺が酸素を取り込み、二酸化炭素を排出する様子など難しい言葉が出てくる部分は、特に仕掛けをしっかり作り、言葉の部分を絵で補うことにしました。

このようにして作成した紙芝居でしたが、実際、子供たちの表情を見るまでは不安で仕方がありませんでした。しかし、難しい内容の紙芝居であるにも関わらず、子供たちは最後まで皆、集中して聴いてくれて、紙芝居の後に友達同士で聴診器を用いてお互いの心音を聴き合うという試みも、概ね満足してくれました。

この紙芝居はその後、前重さんご夫妻主催の小学校 PTA での PUSH 講習会、冒頭で紹介した大阪市立野中小学校での授業でも用いましたが、子供たちはいつも真剣な眼差しで話を聴いてくれます。そして、「命の大切さ」についてもしっかりと理解してくれているようです。

倒れた人を見かけた時にとつさに一歩が踏み出せる社会を作るには小さい頃から何度も繰り返し「命の教育」そして心肺蘇生法を学習する必要があると思います。今回の紙芝居を通して、子供たちに分かりやすく、楽しくそういった学習を提供できるような教材を様々に工夫していくことの重要さを感じました。



医学部教育の中では、患者さんを含め市民の方と触れ合う機会は予想以上にあまりありません。そういった中で今回このような貴重な機会を与えていただいた、石見拓先生、前重さんご夫妻はじめ大阪ライフサポート協会の方々に深く感謝いたします。



なお、紙芝居は YouTube にアップしておりますので、是非一度ご覧ください。

(<http://www.youtube.com/watch?v=uJXnyORu7Hw>)



## 救命、キミにもできる

### 学校で体験学習、じわり

心臓マッサージ・AED・紙芝居で体の仕組み…

心臓マッサージ・AED・紙芝居で体の仕組み…



冒頭で岸森さんが報告してくださいました、大阪市立野中小学校の記事です。子どもたちが心音を聴き合っている写真からも、「いのちの大切さ」に、興味をもって楽しく学んでいる様子が伝わってきます。岸森さん達の活動が、子供から大人まで一人でも多くの方に救命を考えてもらうきっかけとなり、また、今後このような授業が日常的に取り入れられていく事を願っています。 (事務局 龍本)

<2010年7月1日朝日新聞より>



## 応急手当コースからの報告

コース設定運営委員会 小林 正直

6月6日の総会にて、ほぼ完成した姿の応急手当講習会をお披露目いたしました。標準プランではまず119番が必要な時、そしてそのタイミングについてお話をします。ここがキモの部分だと考えています。

その他、命にかかる病気として、胸痛や脳卒中症状への対応をご説明いたします。また、意識がない時の回復体位や窒息、呼吸困難への対応もお話しします。

標準プランは35分間という時間制限の関係で、詳しくお話することができませんので、重症度や緊急性の高い症状は何か、救急車到着までにできることは何か?に絞った内容としております。

また、命にかかるものではありませんが、頻度が多く、多くの市民の方が適切な処置法を知らないものとして、出血の止め方(圧迫止血法)、鼻血の止め方、やけどについてもお話しします。鼻血に対する圧迫止血は実技を行いますが、お披露目会ではかなり好評でした。窒息も実習ができるように進行のしかたを考えてみます。回復体位もアイスブレーキ

ング効果は高く、ぜひやってみたいところなのですが、会場によつては不可能な場合も多く、かなり制限されると思われます。



それでは、119番が必要な時、そしてそのタイミングについてお話を進めていきましょう。救急車は、けがや急病などで緊急に病院に搬送しなければならない傷病者のためのものです。緊急ではないのに救急車が要請され続けると、その次は遠くの救急車を出動させることになってしまいます。このことは、到着の遅れにつながり、救える命が救えなくなるおそれが出できます。

例えば、「單に風邪をひいたあるいは熱が出た」「歯が痛い」「突き指をした」「首を寝違えた」といった

ことで119番される方がいます。これでは、本当に救える命も救えない事態になりかねませんよね。

でも、傷病者の様子や事故の状況などから、急いで病院へ連れて行ったほうがよいと思ったときには、迷わず119番通報をしてください。

例えば、大量の出血をしている時や喉に物を詰めた時、風呂で溺れた時、広範囲の熱傷のとき、などは皆さん迷わず119番されると思いますが、以下の図に示しましたような場合もすぐ119番してください。1分1秒を争います。

しかし、病院へ行つたらいいのかそれとも救急車を呼んだ方がいいのか迷う事がありますよね。あるいは応急手当の仕方が分らないので知りたい時もあると思います。

そんな時は、大阪市消防局の中に「大阪市救急安心センター」があり、市民からの救急医療相談を「相談員」「看護師」「医師」が24時間・365日対応します。そして、相談の結果、緊急性がある場合は、直ちに救急車が出場するシステムです。電話番号は#7119もしくは06-6582-7119です。

また、子供の発熱、下痢、嘔吐、けいれん等の急病で症状が良く分からぬ場合は「小児救急医療相談」窓口があります。20時から翌朝8時まで365日対応しています。これは大阪府の事業で小児科医の支援体制のもとに看護師と保健師が相談に応じます。電話番号は#8000もしくは06-6765-3650です。

迷つたら、119番していただきたいのですが、時として、緊急性がないのにタクシ一代わりに救急車を利用する人が後を絶ちません。真に救急車を利用する人のために、わたしどもは救急車の適正な利用をお願いしていますが、皆さんも周りの方々に救急車の適正な利用法や119番を呼ぶタイミングを伝えていただければありがたいです。

### ＜すぐに119番のケース＞

- ・呼びかけても、身体に刺激を与えても反応がなかったり、どうも受け答えがおかしい時
- ・呼吸困難を訴えたり、「セーセー・ヒューヒュー」といつまでも違う呼吸をしている時
- ・突然胸が痛くなったり、心臓を掴まれたように感じたり、不快感を訴えたりした場合
- ・突然の激しい頭痛が起きた時や、嘔ると呂律が回らない場合や片方の手や足に力が入らない場合
- ・立てなかつたり、立てたと思っても「ふー」となり目の前が暗くなったり、失神する場合
- ・また、ご自身もわかつておられる場合が多いのですが、心疾患や呼吸器疾患・脳疾患の持病を持つおられ、それらが原因と思われる発作が起きた場合など



心停止になってしまった人が完全にもとの生活に戻れるようにしてあげることはそう容易ではありません。「心停止を防ぐ」ということが心肺蘇生法と AED を学ぶこと以上に重要であるとも申せます。

下図に示します救命の連鎖の一番目には、心停止の人を助ける鍵は早期通報という意味であることは、皆さん、もうすでにご存じのことと思いますが、早い通報によって心停止を防ごうという意味もこめられているのです。



図：救命の連鎖  
学習研究社『DVDで学ぶ・カンタン！救急蘇生』より

### 事務局からの報告

7月10日(土)に、第1回目の応急手当コース(簡単 PUSH+応急手当コース 90分)を開催いたしました。

第1回目の講習会は、8名の方のご参加をいただきました。この記念すべき講習会の様子は、下記のとおりです。



講習(座学)の様子



回復体位のデモンストレーション

◇第2回目は、9月18日(土)に開催予定です。  
皆さん、どうぞご見学ください。

### AHAコースからの報告

よしだレディースクリニック 吉田 雅代

大阪ライフサポート協会の AHA コースも、1 年半を経過し、受講者数は伸び悩んでおりますが、定期的に開催させていただいております。この4月より、所属のトレーニングセンターの名称が日本蘇生協議会から「日本医療教授システム学会」という名称に変わりましたが、ファカルティやトレーニングセンターの方針に変更はありません。

来年には、AHA コースを開催して2 年が経過し、当協会でプロバイダーカードを取得された方が、更新の時期を迎えます。これに先立ち、有効期限内のプロバイダーカードをお持ちの BLS, ACLS プロバイダーの方が、当協会で更新される際の更新料を以下のように決定いたしました。初回カードを取得した場所は当協会でなくともかまいません。ご希望の方がおられましたら、詳細は事務局までお問い合わせください。

有効期限内の更新料: ACLS 28,000 円  
BLS 10,000 円

更新は、フルコースの受講でも、実技および筆記試験の受験だけの受講でも可能ですが、実技および筆記試験の受験だけの更新コースは不定期でしか行わず、不合格の場合は、同じ料金で再受験が必要となります。

#### 会員向け「1周年記念コース」の開催

また、この11月には、コース開催をまかされてから1周年を迎えますので、これを記念して協会員の皆様に AHA コースをより知りていただくためのコースを企画いたしました。受講料は、BLS 通常 15,000 円のところを 10,000 円、ACLS 通常 38,000 円のところを 28,000 円です。この機会を逃さず、ぜひ、ご参加ください。(ACLS は国内の医療国家資格をお持ちの方が対象)

1周年記念コース 日時: 10月30日、31日  
場所: 大阪医科大学

大阪ライフサポート協会に未加入および会費未納の方は、受講料と一緒に会費を納入すれば「会員扱い」といたします。但し応募多数の場合は、会員種別、会員歴等で考慮いたします。

募集の詳細、お申し込みについては、近々、メーリングリストにてご案内の予定です。

## 《救命の現場から》～はじめての出来事～

大阪ライフサポート協会 理事 岡 政徳



おとそ氣分もすっかりなくなった、2010年1月30日のお昼に、それは起きた。

午前中にテニスをし、午後からは、別の趣味の時間に当てるか、時々仕事に出るというのが私の常の土曜の過ごし方である。その日、テニスを終え、車に乗って駐車場をでようとした時、遠くで「エーイーデー、エーイーデー」と叫ぶ声が聞こえてきた。

大阪ライフサポート協会の理事としては、放つておけない声を聞いてしまった。すぐ、車を元に戻し、階段を上り降りして、テニスコートに駆けつけると、メンバー達の人垣ができていた。その中に、一人倒れていた。かねてから見知った A さんだ。

「どうしたんですか」「プレー中突然倒れた」。Aさんは、微動だにしていない。痙攣もしていない。メンバーたちは、だれも見ているだけで、手を出そうとしている。

そこに、先程まで私と一緒にプレーをしていた、若手のドクターも駆けつけてきたので、一緒になってその人に呼びかけてみるが、何の反応もない。呼吸もない。そこで、彼のシャツをめくり上げる。やけに毛深いなと一瞬思ったが、厚い胸板に手を当てて、「ブッシュ」。

これまで、人形を使って、3度の講習を受けているので、いくらか慣れているが、本物の人間に対して行うのは初めてであった。すぐに AED が運ばれてきた。パッドを貼り、そして、チェックのボタンを押すと「ボタンを押してください、離してください。」のメッセージが、発せられた。

点滅しているボタンを押すと、パン！の音とともに、体が一瞬浮き上がった。その瞬間、彼の唇から少し泡のようなものが出た。次に、顔などを叩いたり、「Aさん！聞こえますか！」などを大声で叫び続ける。すると、口が開き、瞬きを少しずつするようになり、うなずくようになる。まさに、あの世からこの世に生還した瞬間だ。その間1.2分くらいの間だったと思う。

救急車は、連絡してから5分後（もっと時間がかかったような気がする）に到着した。Aさんは、救急車が到着したときには、息を吹き返して、近くの県立西宮病院に搬送された。病院へは、連絡から14.5分後に到着した。AED が無かつたならば、おそらくお亡くなりになっていたと思う。劇的に人命を救助できる「ブッシュ」と「AED」の効果を実際に目の当たりにした。

病院の医師の検査によると、Aさんが倒れた原因は不明。昔、不整脈だったらしいが、最近ではなんとも無かったということ。その後、Aさんは医師の勧めで、ペースメーカーを装着して、元気に暮らしている。「テニスコートで死ねたら本望だったのに」と Aさんは軽口をいっているらしいが、74歳はまだ早すぎる。

実は、以前、このテニス俱乐部に初めて AED が置かれたとき、AED の装置があるとの表示があるものの、現物が見当たらなかったので、私が、「現物はどこにある？」と聞いたところ、係りが「奥におあります」とのこと。「それでは、急な時に、どこにあるか分からぬじやないか、みんなが見えるところに置いておかないと意味がない」と指摘して、場所を受付の後ろに変えたことがあった。

俱乐部の支配人は、多分当局のご指導で設置しないといけないということで、設置しており、実際に使うなど夢にも思っていないかったのだと思う。この点は、重要なことだと思う。AED を探す時間は、ゼロ秒近くにしておかないと、運ぶ時間だけでも何秒かあるいは、何分か経過してしまう。

30年以上テニスをしているが、これは初めての経験だった。貴重な経験を得た、2010年の始まりだった。

## 《ディレクター・インストラクター紹介》



「え！ 救急車はどこ!?」これが通報者から私たち消防隊員にかけられた第一声でした。

みなさん、こんにちは！ 岩田直之@枚方寝屋川消防組合です。

昨年後半から、剥離骨折1回、不全骨折1回と災難が続き、協会活動も約半年、休止していましたが、最近、ようやく復活いたしました。

さて、今回、当消防組合で取り組んでいます PA 連携 (P:消防小隊・A:救急小隊の略)についてお話しします。

枚方市・寝屋川市で、消防小隊は18隊、救急小隊は14隊（内1隊は消防救急小隊として兼務運用）です。PA 連携は、平成19年10月から実施し、心肺停止状態もしくは心肺停止状態の恐れがある傷病者に対して、最寄りの消防小隊が救急小隊として同時出動し、救急小隊が到着するまでの間、応急手当と心肺蘇生を実施し、その後は、救急小隊の活動補助にあたります。

用いる器具は、バックバルブマスク (BVM) と AED で、救急資格を持たない消防隊員にとっては、BVMを見るのも初めて、触るのも初めて、の初めてづくしでした。BVMの握る強さ、速さ、量がわからず、指導員役の救急救命士（協会のインストラクターでもある T 救命士です。）に何度も教わりました。

さて、運用前訓練も終わり、いざ運用開始となります。当時、救急小隊が配置されていない出張所の消防小隊長をしていましたが、忘れられない事案が二つあります。

一つは、数ヶ月の乳児が心肺停止状態の事案でした。この事案をきっかけに、隊員の取り組み方が尋常ではなく、リトルアン、リトルジュニア、ベビーアン、AEDトレーナーを置いておくと、隊員たちは暇さえあれば訓練をする毎日でした。とくにベビーアンは隊員から「なおちゃん」(何か愛着が...)と名づけられ、每当務、誰かに抱っこ(心肺蘇生+異物除去)されていました。

その後、PA連携出動すると、私が家人に「〇〇消防隊の岩田です。〇〇救急隊がこちらに向かっていますが、救急隊が到着するまで、私たち消防隊が応急手当をします。」と説明する間に、隊員たちは「〇〇消防隊の〇〇です。傷病者はどちらですか!」と真っ先に傷病者のもとに走ってくれるようになりました。

もう一つの事案は、40歳代男性の心肺停止の事案です。消防隊が先行到着すると、指令課員から口頭指導を受けた奥さんが胸骨圧迫をしているのを確認し、ふと目を傷病者の頭側に向けると、娘さん(幼稚園・保育園の年長さんくらい?)が、お父さんの頭に位置し、両手で頸をもち、頭部を後屈しながら気道を確保し、一言も話さず涙を溜めた目でシッカリ私たちを見していました。

私が娘さんに「あとは、おじさんたちがするから、変わろうね。」というと、「こわい!」と大声で泣き叫びながら、部屋を出て行きました。私たちが到着するまで、お父さんを助けたい一心で、お母さんの言う通りに気道確保をしていた姿を目の当たりにし、「この娘さんのためにも教いたい!」という強い意志が隊員間で強烈詰め、AED装着後、私は奥さんへの聴取と、娘さんのフォローに回り、隊員2名は交代で胸骨圧迫とBVM換気を行い、それが功を奏したのかAEDは5回回続、電気ショックの必要がある波形と解析し、アナウンス通りに電気ショックをしましたが、傷病者は、到着した救急隊に引き継いだ後も回復の兆しが見受けられないとのことでした。

帰所途中、娘さんの姿を思い出し、助けられなかつたと落胆する重い空気に掛ける言葉が見当たらず、私はただ一言、「次の出動に備えようか。」と気持ちの切り替えを促すことしかできませんでした。

タクシー代わりの急病にも出動したりと、色々なことに遭遇?体験?するPA連携出動ですが、私は、救急車が到着するまでの単に時間を費ぐだけではなく、「命を救うための連携」であると、思っています。



高嶋美和さん

高嶋美和です。昨年秋、東京から大阪に引っ越してきました。この春に大阪ライフサポート協会に入会致しました新参者です。宜しくお願ひ致します。

東京では、日本医科大心肺蘇生フォーラム、NPO法人愛宕救急医療研究会(慈恵医大)で活動していました。医療従事者を対象としたAED講習会、AHAコースが主な活動で、夜間のコースを含めそれぞれに2~3回/月開催されていました。

一般市民を対象とした講習会は少なく年に数回でしたが、その他に東京都CCU連絡協議会による「心臓病患者家族へのAED心肺蘇生法講習会」がありました。ご家族に心臓病の患者様を持つ方が対象であり、都内の加盟施設より参加者、インストラクターが集まっています。

2008年10月には、日本武道館を会場に、参加者394名、インストラクター230名が集結し大規模な全体講習会が開催されました。愛する家族を救うために!を合言葉にみんなで胸骨圧迫に取り組む様は圧巻でした。参加された方々の強い思いがひしひしと感じられ、ご家族だけでなく一人でも多くの方に伝えていくことの大切さを再確認した一日でした。

こちらでは引っ越してきて直ぐに「PUSH講習会」を受講しました。配られた"箱"に興味津々。"あっぱくん"を見るのも使うのも初めて。

東京にいた頃"あっぱくん"って何?と話題になっていましたが、実際に使ってみてその簡便さと機能にびっくり!短時間に胸骨圧迫とAEDの使い方を学んだ講習会はまさに感嘆!の一言でした。

この春、アシスタントとして「PUSH講習会」に参加させて頂き、学ぶ楽しさ、伝える楽しさに奮起!大阪ライフサポート協会に入会致しました。再スタートを切ったばかりです。

皆様にご指導頂きながら、頑張っていきたいと思っております。  
宜しくお願ひ致します。



＜日本医科大心肺蘇生フォーラムでの講習会活動の様子＞

## 2009年4月～2010年3月の講習会活動実績

昨年度(2009年4月～2010年3月)の講習会実績をお知らせいたします。ご参加・ご協力くださいました皆様、ありがとうございました。今後も、メール・HPで早めにお知らせするよう努力してまいりますので、積極的なご参加をよろしくお願いいたします。(事務局)

★ → 大阪府委託コース

★ → 大阪府立高校「PUSH 関連コース」

2009年	コース	開催場所	人数
4月	11日 AHA	大阪医科大学	11
	12日 AHA	大阪医科大学	9
	16日 講+P	豊田通商	27
	18日 P	★ステュディオ新大阪	2
5月	2日 P	★ステュディオ新大阪	1
	13日 A/B	★済生会千里病院	18
	16日 AHA	大阪医科大学	9
	17日 AHA	大阪医科大学	11
6月	4日 P	麻生ラファージュ	8
	4日 イベント	インテックス 防災フェスタ	
	6日 P	★ステュディオ新大阪	3
	8日 P	★和泉市立西小学校	42
	10日 A/B	★済生会千里病院	14
	17日 P	★大阪市立海老江西小学校	23
	21日 A+医	都島区医師会	19
	27日 AHA	大阪医科大学	13
7月	28日 AHA	大阪医科大学	8
	1日 P	★大阪市立五条小学校	137
	4日 A	愛仁会看護助産専門学校	44
	8日 A/B	★済生会千里病院	11
	9日 P	大阪聖母学院小学校	63
	12日 指	★新大阪ステーションホテル	6
	13日 P	大阪府立大塚高等学校	77
	15日 A	キヤノンマーケティング(東京)	20
	16日 指	キヤノンマーケティング(東京)	20
	16日 P	大阪府立堺東高等学校	42
	18日 P	★新大阪マルビル本館	11
	25日 P	守口市民体育館(フォーダンス連盟)	30
8月	25日 AHA	住友病院	19
	26日 AHA	住友病院	6
	29日 A/B	★小泉産業㈱	9
	31日 P	中之島センタービル(関経連)	26
	1日 P	★ステュディオ新大阪	2
	5日 A/B	★済生会千里病院	16
	6日 P	中之島センタービル(関経連)	42
	9日 小瀬BLS	石切生駒病院	26
	12日 P	★大阪府庁新別館南館	42
	12日 B	★大阪府庁新別館南館	40
	15日 AHA	神戸神鉄病院	17
	19日 P	★大阪府庁新別館南館	28
9月	19日 B	★大阪府庁新別館南館	40
	21日 B	藍野大学	50
	21日 B	藍野大学	47
	22日 指	★ステュディオ新大阪	11
	24日 B	東海大学付属仰星高等学校	34
	25日 B	藍野大学	53
	25日 B	藍野大学	13
	25日 P	★府立生野障壁支援学校	48
	25日 P	★府立生野障壁支援学校	28
	26日 P	★大阪府庁新別館南館	16

2009年	コース	開催場所	人数
9月	6日 イベント(P)	★大阪市立住之江会館	86
	11日 P	★大阪府庁新別館南館	15
	11日 B	★大阪府庁新別館南館	43
	12日 B+医	北区医師会	28
	13日 B	★南部朝日会②: SAYAKA HALL	55
	20日 イベント(P)	★救急防災フェスタ2009(ATC)	358
	26日 P	★新大阪丸ビル本館	17
	29日 A/B	★小泉産業㈱	11
10月	3日 P	ミズノ舞州スポーツアーランド	20
	3日 P	NPO法人 ネイティブヘルス	16
	7日 B	★大阪府立泉陽高等学校	16
	9日 B	★大阪府庁新別館南館	43
	10日 B	★大阪府柔道整復師会	30
	11日 B	★南部朝日会③: サンスクエア堺	39
	14日 A/B	★済生会千里病院	18
	17日 P	日建マネジメント・引江集会所	42
	18日 B	★南部朝日会④: 朝日新聞堺工場	33
	24日 イベント	イオンリんくう泉南 防災訓練	
11月	24日 P	★住友病院	7
	25日 指	★ステュディオ新大阪	2
	27日 P	★豊國神社	54
	9日 B	キャノンマークティング(東京)	69
	11日 A/B	★済生会千里病院	7
	14日 B+医	芦屋市医師会	9
	16日 講演会	吹田市体育協会	
	18日 P	★大阪府庁新別館南館	15
	18日 B	★大阪府庁新別館南館	35
	19日 P	ブル学院	40
12月	21日 AHA	住友病院	13
	22日 AHA	住友病院	9
	25日 A/B	★小泉産業㈱	37
	27日 P	★府立大冠高校	48
	28日 講+P	神峯山寺	77
	5日 市民B	★イム/ファーマー大阪	20
	5日 D認定	東大阪体育連盟	36
	9日 A/B	★済生会千里病院	9
	11日 市民B	★大阪府庁新別館南館	40
	12日 AHA	大阪医科大学	7
2010年	13日 AHA	大阪医科大学	5
	15日 講演会	大阪府教育会館たかつガーデン	
	19日 P+P指	★新大阪日大ビル	6
	19日 D認定	東大阪ラグビー協会	20
	22日 P+P指	★府立茨木工科高校	56
	29日 P	東大阪・西尾木材工倉所	47
	9日 医	堤坂病院	28
	13日 A/B	★済生会千里病院	5
	16日 AHA	大阪医科大学	15
	17日 AHA	大阪医科大学	5
1月	17日 D認定	東大阪少年軟式野球連盟	32
	18日 P	★府立阿武野高校	41
	20日 P	★大阪府庁新別館南館	10
	20日 B	★大阪府庁新別館南館	39
	21日 P	★府立佐野支援学校	25
	23日 D認定	神奈川コンピューター	18
	26日 P	★府立交野高校	39
	27日 P+P指	★府立勝山高校	47

年	月	コース	開催場所	人数
1月	27日	P+P指	★府立東淀川高校	75
	29日	P+P指	★府立泉尾高校	34
	29日	P	★府立和泉総合高校	22
	29日	P	★府立桜塚高校	15
	3日	P+P指	★府立美原高校	67
	4日	医	大阪薬業保健センター	18
	5日	P+P指	★府立牧野高校	58
	5日	P	★府立摂津高校	39
	8日	P	★府立守東高校	37
	10日	P+P指	★府立久米田高校	54
2月	10日	P	★府立山本高校	38
	10日	A/B	★済生会千里病院	16
	12日	P	★府立枚方なぎさ高校	92
	12日	D認定	大阪医科大学	46
	13日	AHA	住友病院	22
	14日	AHA	住友病院	8
	15日	P	★府立平野高校	30
	17日	P	★府立大手前高校	36
	17日	P	★大阪府庁新別館南館	11
	17日	B	キャノンマークティング(東京)	61
	18日	P	★府立今宮工科高校	36
	19日	P	★府立門真みみはや高校	63
	20日	P	★新大阪日大ビル	14
	21日	医	大阪医大 産業医AED講習会	33
3月	22日	P	★府立長尾高校	39
	22日	P	★府立東大阪支援学校	34
	22日	P	★府立豊美丘高校	40
	25日	P+デモ	交野保健所	18
	4日	P	★府立堺工科高校	12
	6日	P	★府立天王寺高校	55
	9日	A/B	AEDマップ事業メンバー向け①	15
	10日	A/B	★済生会千里病院	10
	18日	AHA	大阪医科大学	4
	16日	A/B	AEDマップ事業メンバー向け②	15
4月	18日	A/B	AEDマップ事業メンバー向け③	13
	20日	指	★新大阪日大ビル	6
	21日	医+A	都島区医師会	14
	25日	P	モトローラ(株)	9
	25日	A/B	AEDマップ事業メンバー向け④	12
	26日	B	愛仁金本部(ライフインセンター)	92
	27日	AHA	大阪医科大学	3
	28日	AHA	大阪医科大学	4
	合計			151回 4,654名

\* \* \* \* \* コース名詳細 \* \* \* \* \*  
 A → 市民Aコース、B → 市民Bコース、P → PUSH、指 → 指導者養成コース、医 → 医療従事者コース、講 → 講演会。  
 P指 → PUSH指導者養成、D認定 → ディレクター認定コース

■2010年度4~6月の講習会開催状況のお知らせ  
 今年度から、大阪府委託枠講習がなくなり、コースの減少を危惧しておりますが、実績は下記のとおりです。

	講習回数	参加人数
2009年度4月~6月	16回	218名
2010年度4月~6月	34回	1005名

今後も、会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ありがとうございました!!

2009年度

### ディレクター・インストラクター AED講習会参加回数(10回以上)

フレッシュアシスタント、イベント参加は除きます。

	氏名/協会資格	回数
	木下 正一 インストラクター	44回
	光島 和子 インストラクター	33回
	小嶋 緑 ディレクター	24回
	濱田 基宏 インストラクター	21回
	松本 政明 ディレクター	20回
	石見 拓 ディレクター	17回
	関 祐介 ディレクター	17回
	小倉 勝男 インストラクター	16回
	岩田 直之 インストラクター (2010年度よりディレクター)	15回
	赤塚 敬司 ディレクター	13回
	岸本 正文 ディレクター	12回
	橋本 齊美恵 インストラクター	12回
	中島 和司 ディレクター	10回
	山添 学 ディレクター	10回
	井村 智弘 インストラクター	10回



## 事務局からのご連絡

### ■7月現在の会員状況

正会員 132名、賛助会員(個人) 43名、(法人) 17団体、特別会員 4団体

(引き続き、会員の拡大、会費ご入金についてご協力を  
をお願いします)

- ・認定ディレクター:48名
- ・認定インストラクター:162名
- ・ブレインストラクター:38名
- ・アシスタントインストラクター:30名

※なお、会員登録内容(メールアドレス・住所・勤務先等)  
の変更がありましたら、お手数ですが、下記にてお手続きください。

協会 HP>大阪ライフサポート協会について>入会手続き>  
登録内容変更の手続き

### ■ご寄付・助成のお知らせ

2010年2月以降の状況は下記のとおりです。ご厚志に心より感謝を申し上げます。

#### 寄付

- ・7月 株式会社三高サプライ様

#### 助成金

- ・3月 The Medtronic Foundation 様から学校への  
PUSHプロジェクト普及の為の助成をいただきました。
- ・3月 公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団様



から「安全で安心できる社会」の実現に寄与する活動の助成をいただきました。  
財団事務局の岡松様がお越しになり、松本事務局次長より感謝状を贈呈いたしました。

### ■新ディレクター・新インストラクターのご紹介(順不同)

新しく、ディレクターに岩田直之さん、吉田茂樹さんが、又、インストラクターに大垣昌之さん、大西香里さん、小笠原孝嗣さん、高嶋美和さん、花田亜矢子さん、半田明子さん、向井隆之さん、邑上昌謙さん、吉岡明香さんがなられました。皆様のご支援をお願い申し上げます。

### ■救急の日イベント

添付資料の通り、9月5日に『救急防災フェスタ2010』を開催します。皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

なお、プログラム中のPUSH講習会は、第2回“全国でPUSH!”運動の大坂会場を兼ねております。

### ■AHA 1周年記念コースのご案内

10月30日・31日に会員の皆様へ向けての、1周年記念コースを開催いたします。

詳細は、AHAからの報告(P13)をご覧ください。

	通常料金	特別料金
BLS	¥15,000	→ ¥10,000
ACLS	¥38,000	→ ¥28,000

(ACLSは国内の医療国家資格をお持ちの方が対象)

### ■“あっぱくん”的通信販売を始めます!!

9月より、“あっぱくん”的少数購入(19個以下)が、ネット通販で可能となるよう準備中です。

(⇒P9、10「PUSHプロジェクト報告」参照)

最終内容が確定したら、ホームページ、また、ちらし等でご案内します。

### ■協会サイトのモバイル化

大阪府AEDマップは、今春より携帯電話からもアクセスできるようになりましたが、協会本体のホームページも携帯から見ることができるよう、現在準備を進めています。

(⇒AEDマップは、表紙のQRコードからアクセスできます)

### ■顧問税理士の交代

7月1日より、薩美桂太先生から、中原俊男先生、中原さくら先生に顧問税理士が交代されました。

### ■新職員の紹介

7月から、事務局に、車谷 齊造さんが新しく入られました。主に、AED講習会担当として田中裕美さんと共に活動しますので、皆様との接觸の機会も多いと思います。どうぞよろしくお願いします。



### —《発行・編集》—

NPO法人 大阪ライフサポート協会 事務局

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-17-5 ステュディオ新大阪416号

T E L 06-6370-5883 (平日10:00~17:00) F A X 06-6370-5884

W E B <http://osakalifesupport.jp/>